

— こみあげてくるもの —

令和3年度第2学期。私たちは恵田っ子と共に75日を過ごしてきました。思い返せば8月27日にスタートをきたったものの、感染症による影響を大きく受けることになりました。特に、子ども達も楽しみにしていた運動会が、異学年のとの合同練習による感染拡大や猛暑による熱中症の危険から9月の開催は困難となり、他にも今まで通りできないことが多々ありました。しかし、先生方、恵田っ子達、保護者の方々や地域の方々と力を合わせアイデアを出し合い、毎日を過ごして行くことができました。

練習は2か所に別れて。練習の時はマスクを着用して。こんな状況の中でスタートした学芸会にむけての恵田っ子ハーモニーの練習。「大丈夫だろうか。本番まで間に合うのだろうか。」心配は尽きませんでした。しかし、休み時間に校内を歩くと、自分の担当する楽器演奏を懸命に練習する子ども達の姿がありました。



「今年いつもの年とは違うけれど、こうして全校のみんなと恵田っ子ハーモニーができる、それだけで嬉しい。先生は全校のみんなの前で指揮をしていると、胸にぐっとこみあげてくるものがあるよ。」

恵田っ子ハーモニーの指導を務めた中里先生が、こんな素敵な言葉を子ども達にかけていました。

先の見えない不安や楽しみにしていた活動や行事の変更、マスクの外せない日々会話を抑えた会食……。こうしたことに立ち向かいながら、75日の日々を明るく楽しく仲間と過ごしてきた子ども達。私自身こみあげてくるものを何度ももらった2学期でした。水泳大会や陸上大会では、緊張に震えながらも挑戦し仲間のために力を尽くしたたくましい姿。修学旅行では、友の体を気遣い、荷物をさりげなく持っあげたり自分のカイロを優しく手渡したりする優しい姿。あと1秒を乗り越ええるため、前だけを見据え苦しくても走り続けたひたむきな姿。今こうして思いだしていても心が温かくなります。2021年があと数日で終わろうとしています。いつも学校を支えてくれている9人の6年生にとってはよいよ最後の3学期を迎えようとしています。かけがえのない一日一日を大切に、2022年を歩んでいきたいと思ひます。

支えて下さる方達と共にすごせた 収穫感謝祭

11月27日、恵田っ子全員が心待ちにしていた収穫感謝祭が開催できました。地域の方々に直接教えて頂き、4月から心を込めて育ててきた作物。このような機会や時間を毎年与えて頂ける恵田っ子は本当に幸せです。かけがえのないこの学びと経験が、「ふるさと恵田を大切に思う心」を育みます。お世話になった地域の皆様、保護者の皆様ありがとうございました。

